

故 濱嶋市長追悼特集

報 かしわ

（人のうごき）
(41. 9月末現在)
人口 115,868
世帯 29,825
前月に比べ
532人 167世帯の増

発行所
柏市役所
柏市柏206番地
電話柏(07)1111代表
編集 秘書課広報係

故 濱嶋市長市葬儀

柏第三小学校体育館で執行

故濱嶋市長の市葬は、十月十八日午後一時から、柏第三小学校体育館で行なわれました。この日は、生前の市長の人格をうつつように、澄みきった青空が一杯に広がり、一点の雲もなく、さわやかな秋晴れに恵まれました。会場は、前日から市職員の手により整えられ、塵一つない清道に、二百数十に及ぶ花輪が、故人の遺徳をしのぶ人々から贈られ、奇麗を飾りました。



花輪で飾られた式場入口



香華の絶えない焼香台

市内外からの二千名近い会葬者が、定刻前から続々会場を埋め、午後一時には、故市長の遺骨がご長男照佳さんによって捧げられ、ご遺族が柏中学校生徒の奏する葬送行進曲の中で、悲しみのうちに入場されました。続いて導師が入場し、祭壇の香華がたゆたうなかで、高橋葬儀委員長の閉式の辞により式が始められました。祭壇には、一段高く故人の遺影が飾られ、笑みをたたえた温厚は会葬者に今にも語りかけるように遺骨を中心に、ご位はいが並び、その後、内閣総理大臣から特旨をもって贈られた正六位勲五等双光旭日章の位記と勲記が、ゆらめくご灯明に映え、故人のご遺徳をしのばせておりました。

祭壇の周囲は、沢山の盛花で飾られ、黄菊、白菊をはじめ季節の花で埋められ、弔旗が一段と高く立てられました。導師の祭文が奉読され、読経がしめやかに流れるうち、会場正面の入口にすえられた焼香台には、会葬者の回向が絶えず、市内外の関係団体代表者の中にも、子供を背負った主婦や孫に手をひかれたご老人、普般のままかけつけた市民などが続き、香華の煙は絶えることがありませんでした。式は、全員故人の冥福を祈念して黙祷を捧げるうち、去る九月定例市議会で行なった二股報告の録音が再生され、会葬者一同新たな悲しみの思いにかられました。松崎葬儀委員長が、おごそかに祭文(別項記事)を讀前に捧げました。ひきつづき、照佳さんを始め、

葬儀委員長祭文

謹んで故濱嶋市長の御霊前に申しあげます。生者必滅会者定離は人の世のおきてと申せ、本日私が葬儀委員長として故濱嶋市長に対し追悼の言葉を捧げることになろうとはまことに痛惜の念耐え難いものがございます。

さきに初代市長鈴木悦三氏が急逝され、今また濱嶋市長の突然の逝去と、柏市民をはじめ私たちが何故にこのような不幸を背負わねばならないのでありましょうか。計策に援けて以来、ただ非痛、驚愕(がく)茫(ぼう)然として語ることもなく、暗夜にともしびを失った旅人のように不術も知らないのであります。

かえりみすれば、濱嶋市長が鈴木前市長の遺業を継承して昭和三十三年十二月一日就任以来二期八年の間市政をたくましくつらんとした郷土の首長として、首都圏内の進展著しい中堅都市の複雑

ことに寛容でありました。柏市の今日あるを得たのは、いづれに濱嶋市長の不屈の精神と郷土を愛する熱情のしからしむるところであり、一生を公共の福祉と奉仕に捧げ推察申しあげます。

故濱嶋市長の履歴

- 学歴
一、昭和四年三月 東京農業大学卒業
略歴
一、昭和十七年七月一日、柏町議会議員に当選し、昭和二十九年八月三十一日まで、三期二年にわたり、町会議員に就任し、この間議長を二年間務めました。
一、昭和十九年四月十三日、柏町農業会副会長に就任、同年七月には会長になり、二十一年三月十五日まで就任しました。
一、昭和二十三年一月十日、柏町農業共済組合長に就任し、市制施行により、三十年六月一日初代柏市農業共済組合長となり、三十三年十二月三十一日退任しました。
一、昭和二十三年柏町農業会が柏町農業協同組合となり、二十六年六月一日に二代組合長となり、市制施行により柏市農業協同組合と名称を変更しその組合長として三十二年五月三十一日まで就任しました。
一、昭和二十九年九月一日、市制施行により東葛市議會議員となり、同年十月十五日市名を柏市と変更、市議會議員となつて、三十年九月一日、新市議會議員に当選し、市長に立候補する三十二年十一月まで二期の間、市議會議員を務めました。
一、昭和三十三年十二月一日、才二代市長に当選し、一期(三十七年十一月三十日まで)二期(四十二年十月七日まで)と八年にわたり、市政の執行にあたりました。
一、昭和四十二年十月七日、平常通り執務、帰宅の後午後八時四十分、心臓マヒのため急逝されました。
一、この他農地委員(昭和二十二年四月、三十七年七月)、農業委員(昭和二十六年七月、三十五年七月)、食糧調整委員(昭和二十二年四月、二十六年三月)、手賀沼土地改良区理事(昭和三十年四月、三十四年四月まで二期四年)、東葛都市農業協同組合協会副会長(昭和二十八年四月、二十九年三月)、千葉県農業協同組合連合会理事(昭和二十九年四月、三十一年六月二十七日)、全国共済組合協会会長より共済事業運営優秀のため表彰(昭和三十三年六月二十日)、千葉県知事より多年農業共済事業に寄与し、農業指導者として功績を認められ表彰(昭和三十三年六月二十七日、一九九四年四月、三十二年三月) 十九年四月、三十二年三月) 全国市長会関東支部千葉県理事(昭和三十三年八月、三十九年五月)を歴任しました。
賞 罰
柏町農業協同組合長、柏市共済組合長としてよくその職責を果したような表彰(主なもの)をうけました。
一、昭和二十七年四月、農林中央金庫理事長より貯蓄補助に努め顕著な成績を収めて表彰。
一、昭和二十八年十二月十五日、千葉県農業協同組合協会会長より経営優秀及び農村経済発展に寄与した功績で表彰。
一、昭和三十年四月十三日、大蔵大臣及び日銀総裁より、貯蓄増進に努め、日本経済の自立に多大な貢献をしたことにより表彰。
一、昭和三十三年六月二十七日、全国共済組合協会会長より共済事業運営優秀のため表彰。
一、昭和三十三年六月二十日、千葉県知事より多年農業共済事業に寄与し、農業指導者として功績を認められ表彰。

叙位 叙勲

昭和四十一年十月七日、内閣総理大臣より 特旨をもつて、正六位勲五等双光旭日章に 叙せられました。

事

故浜嶋市長は、昭和四年に農業大学を卒業され、家業の農業につかれられたり、農事研究にはげまれ、早くから郷土の先覚者として里人の指導にあたっておられた。

特にその温厚で誠実な人柄により農業協同組合、農業共済組合など農業関係団体の長に推され、戦時中、或いは終戦直後の混乱した世相の中にあつてよく郷土の農業振興につくされ、専門的知識を駆使しての技術指導、市制施行の時期にあつたこの団体の育成、その温厚な人柄による円満な機構運営など、数々のすぐれた業績を残されました。

また、昭和十七年には柏町町会議員に当選、昭和二十九年九月一日の市制施行まで、三期にわたつて地方自治の進展に努力され、昭和二十七年から二年間副議長としても議会の円滑な運営につくされました。

昭和二十九年九月一日市制施行後は市議会議員として活躍され、市長選挙に立候補されるまで二期四年の間、引続き議員として、誕生間もない市政の発展に尽くされました。

植物と市長

植物と市長は切り離せないもので、出張先から珍しい植物を持ち帰られたり、ご自分で配合された肥料を知人や職員にわけたりされましたが、今年の五月十七日、花いっぱい運動市民推進協議会の発会式席上の挨拶では、「どんな挿木でも七月十三日にさせば絶対につく」といわれ、その方法まで細かく披露されました。

市長の話は、いつも面白いものと思つていた参加者は、特に理論だけでなく、実証により話される市長に改めて深い感銘を受けました。また、推進栽培は、全く上手で戸張の家で作った味よい推進を季節になると浜山、関係者にはばられたことも忘れられない思い出です。

お灸と市長

「戸張の浜嶋家の灸」といえば近在にきこえた灸で、公務で忙

績

この間、農業委員、農地委員など数々の農業関係要職につかれ、混乱期の食糧確保、農地解放など困難な問題の解決に努力されました。昭和三十三年十二月一日、市民の衆望をになつて才二代市長に就任され、前任の鈴木市長の遺志を受けて、発展期を迎えつつある市政の執行にあたられ、下水道の整備、下水道築造工事、土地区画整理事業の着手、塵芥焼却場の建設、中央公民館の落成、小中学校の増設など、建設、民生、教育の全般にわたつて市民福祉の向上につとめられ、また、駅前防火帯工事の推進による都市環境の整備、地方教育振興のための柏日体高の誘致、近隣三町と共同して東葛中部地区総合開発事務組合を設立し、その経営にかかわる火葬場の建設など内外にわたつて積極的な施策を進められました。

昭和三十三年十一月一日には、再び市長に当選され、前以来の諸事業の完成を目指し、都市計画用途地域の整備指定、建設七カ年計画の策定と実施など、積極的に都市計画整備に取り組まれ、豊四季団地の造成など住宅開発の推進をはかり、昭和三十九年には十万人の身体をささいには灸で灸をすえられ、その漢法医療は素人の城を脱しており、顔色の悪い職員を呼んで灸をすえ、病根を指摘、時には市長室で灸をすえ、あまねく仁術をほどこされました。

この灸により身体がよくつた人は浜山いますが、その一人は、しみじみと灸の跡をなでて、市長の温みを感じ、「もう二度と灸をすえて貰えない」と吐息をもらっていました。

余滴

鈴木前市長のスクーターも有名でしたが、浜嶋市長のバイク姿もなつかしいもので、戸張から市役所までの二キロの道を背を丸めて、古びたソフトをかぶり、レイノコートをばおつて通勤されたものでした。関係者が「自動車で」とす

バイクと市長

市が実現、その当を得た施策により、柏市の発展は全国でも数少ないものとなりました。また、昭和四十年には、市制施行十周年記念事業として近代的、合理的な市政のセンターとして新庁舎を建設し、他方、産業都市への飛躍をめざして十数ヶ年工業団地の開発に着手しました。この間、校舎の増設、給食施設の新設、伝染病隔離病舎の設置、し尿処理場、市民会館の建設、常磐線柏駅折返し電車の開通、才六小学校、光ヶ丘保育園の新設、柏保健所の誘致など民生の充実に意を注がれ、都市計画道路、市道の増設、国道十六号線の整備、公共住宅建設の促進、住居表示事業の実施など、市民生活、都市建設全般にわたつて一日も休むことなく続けられました。

このように、その半生を公共の福祉と奉仕に捧げられ、高潔な人格とたゆまざる精進によって常に市民生活の向上に途を尽され、また、寛容をもつて部下職員の統率にあられた浜嶋市長の名は、永久に柏市の歴史に刻まれ、亡くなった今、人々の心に大きなうねりを感じさせ得ません。

手品と市長

市長の手品は素外人に知られていませんが、割箸をヒョッコと手のひらに立たせたり、ハンカチからお金を取り出したり、紙をぐるぐるまわして、アッという間に「日本」や「柏」を切り出してみせるなど、素人の城を脱しており、いつの間にか習熟されたものか、目をみはらせるものがありました。

あつた日の市長



市長室で(昭和四十一年六月)



消防出初式で祝賀(昭和四十年一月)



十周年記念植樹(昭和四十年二月)



成人を迎える入道(座談会)(昭和四十年十二月)



市議会議場で(昭和四十一年六月定期市議会)



余暇にゴルフを楽しむ(昭和四十一年八月)



赤い羽根共同募金で街頭に(昭和41年10月)



新庁舎起工式で餅入れ(昭和三十九年一月)



横断歩道橋開通式(昭和40年3月)

濱嶋市長の御霊よ 安らかに

記帳の後、焼香する会葬者



葬送行進曲を奏する柏中プラスバンド



葬儀場正面(三小体育館)

導師の祭文



悲みのうちにお迎えするご遺骨



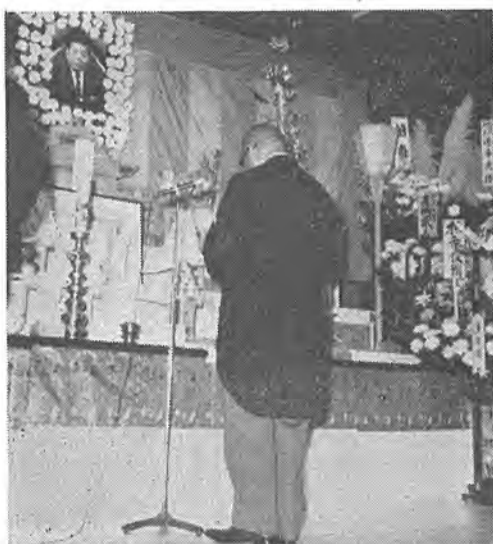
弔辞を奉読する中島市議会議長

会葬者で一杯の式場(壇上は松崎葬儀委員長)

開式を告げる高橋葬儀副委員長



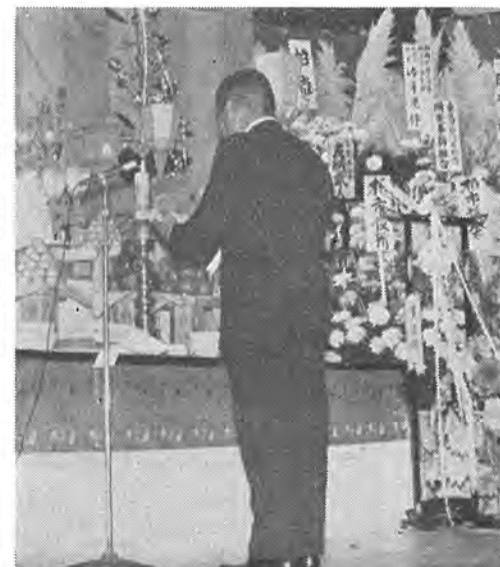
全国市長会副会長水戸市長の弔辞



市内小中学校生徒代表柏中青山文代さんの弔辞



市役所職員代表鈴木総務部長の弔辞





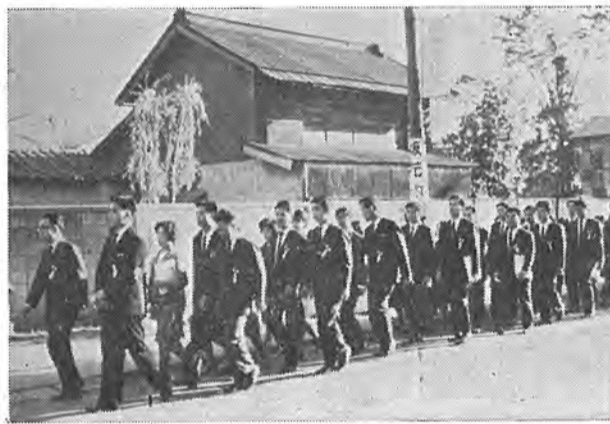
日体高プラスバンドの先導で市中を行く葬列



弔旗を先頭に静かに出発する葬列



菩提寺で会葬者にお別れのご遺骨



葬列の中を進む市役所職員



長全寺で最後のお別れをする市消防団員



長全寺山門を出るご遺骨



お墓所戸張正光寺の階段をのぼり墓地へ



永遠の眠りにつく御霊



自宅告別式での読経



自宅にしつらえられた祭壇(告別式)



告別式後自宅から火葬場に向かう柩



僧の導きで自宅を出る柩(告別式)



市役所全職員悲しみの野辺送り(市庁舎前)

